

週刊(毎週月曜日発行)／購読料・1カ年49,500円、6カ月27,000円(税・送料とも)／昭和55年9月26日第三種郵便物認可／発行所・株式会社 鋼構造出版／発行人・田中貴士 編集人・大熊稔／本社・東京都中央区日本橋茅場町2-2-2 三恵ビル5階 〒103-0025 電話 東京03(5642)7011(代表) F A X 03(5642)7077 / 大阪支社・大阪市西区西本町1-14-3 本町コスモビル 〒550-0005 電話06(6536)2601(代表) F A X 06(6536)7603 / 札幌支局・札幌市白石区北郷4条3丁目2-21 〒003-0834 電話011(879)7666 F A X 011(873)3636 / 振込銀行口座・みずほ銀行京橋支店024-1044873 / 郵便振替口座 東京00130-9-13713

おもな記事

- 鋼製橋梁業界
 - 「ポルト需給」
 - 新春特集企画
 - 19年課題と方
- 横山丈夫(17面)



第1908号 (第三種郵便物認可)

鋼構造ジャーナル

2019年(平成31年)1月7日

(8)

清松総合鐵工(大分)

津波避難訓練に屋上を開放

行政と協力し地域に貢献

大分県宇佐市の八幡校区自治体が12月16日に実施した防災避難訓練で、11月1日に同市と災害協定を結んだHグレードファブ、清松総合鐵工(宇佐市大字尾永

井、清松芳夫社長)が本社屋上を避難場所に開放、周囲の住民約200人が津波発生を想定した訓練警報に従い避難した。

訓練の想定は、マグニチュード7の南海トラフ地震が発生し、宇佐市は震度5強の揺れを観測、これに伴い津波警報が発表され、避難指示が発令されるもの。当日は避難訓練のほか、地震体験車が用意され、参加者らは震度7相当の揺れを体験し、

日ごろから災害に備える大切さを再確認した。

また、来季からJ1に昇格する地元サッカーチーム、大分トリニータのミッドフィールダー、馬場賢治選手と國分伸太郎選手が訓練に参加。これは大分トリニータの榎徹社長が、清松社長から避難訓練について話を聞き、訓練の必要性や地域貢献などの意義に賛同し、選手派遣による協力が決まったもの。参加した2選手は地震体験車にも乗車して、大きな揺れに驚いていた。

清松社長は「宇佐市、大分トリニータ、弊社の3者は常日ごろから地域貢献や防災などの取り組みを大切にしており、今回はそうした気持ち共有できたことから実現に至った。今回で終わりにせず、これからも地域のためにさまざまなことに挑戦したい」と取り組みへの意義を語った。



地震を体験する馬場選手(手前左)と國分選手(同右)、清松社長(奥左)、清松専務(同右)

メカトロ社の事業譲受 画像処理の技術力を向上

コンドーテック

コンドーテック(営業本部・大阪市西区境川)は、6582・9581)は、このほど、メカトロエンジニアリングの省力化、画像処理機器事業を譲り受けることを決めた。事業譲受日は1月7日。譲受内容は省力化、画像処理機器、各種検査機器、検査治具などの設計・製作。今回の譲受によって、同社子会社の中央技研が設計・製造する省力化機器や製造機械などに対し、

メカトロ社が持つ画像検査技術などの技術力が加わり、付加価値の高い製品を市場に投入していく方針だ。

同社は現在、中期経営計画(18〜20年)のもと、成長戦略として既存のコア事業の一層の収益力強化に加え、事業環境の変化に対応

するため、今後成長が見込まれる分野(海外、社会インフラの老朽化に伴う維持修繕工事、人手不足・働き方改革への対応に伴う省力化)への投資を進め、持続的成長と長期的な企業価値向上に取り組んでいる。今回の譲受はその一環となる。

約200人が津波発生を想定した避難訓練に参加

